

# 米国戸建住宅の延面積と居室の床面積

尚綱女学院短大 桂 重樹

**目的** 近年、我が国に欧米住宅のデザインを取り入れた住宅が建設されるようになってきた。神戸市住宅供給公社の手で西神ニュータウンに建設されたバンクーバー村、シアトル村に見られるように、米国の住宅をそっくり輸入し建設しようとする試みも行われた。そこで、本研究では米国の戸建住宅を対象として、その延面積および各居室の床面積を分析し、その特徴を明らかにした。

**方法** 米国の戸建住宅の図面を、市販されている米国の住宅雑誌4誌より合計431戸採取した。それぞれの図面より延面積、リビングルーム、ダイニングルームなどの公室の床面積およびベッドルームなどの私室の床面積を求めた。ただし、バスルームは除いた。また、面積の測定方法の違いにより米国の住宅の延面積は4%ほど日本の住宅より大きい値となるか調整は行わなかった。

**結果および考察** 採取した431戸の延面積の最小値、最大値はそれぞれ77.4m<sup>2</sup>、488.75m<sup>2</sup>であったが、外れ値を除いたところ、データ数は410、最大値283.73m<sup>2</sup>、平均値168.66m<sup>2</sup>、中央値162.93m<sup>2</sup>、標準偏差42.86となった。母集団は正規分布すると仮定して、母平均の95%の信頼区間を求めると164.52~172.21m<sup>2</sup>となった。85年の米国の持ち家の平均値159m<sup>2</sup>と比較すると平均値で6.1%ほど大きい。各居室の床面積と延面積との関係を求めたところ、公室の合計面積と延面積との相関性が大きく、延面積の増大に伴って公室の数が増える傾向にあった。また主寝室と延面積の相関性が大きく、延面積の増大に伴って主寝室の床面積が増大することなどを明らかにした。